

【宿泊施設・交通】

本大会では宿泊施設の受付は行っておりません。
宿泊参加される方は、各自でお早めに宿泊施設の予約をお願いいたします。

■会場までのアクセス

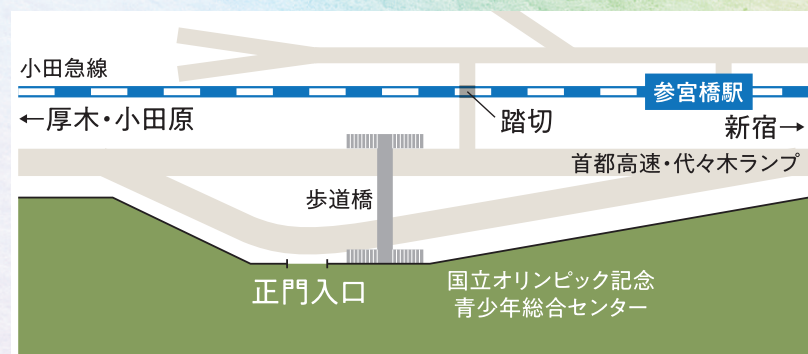
国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
Tel: 03-3469-2525

■東京駅より

JR中央線 新宿駅乗り換え⇒
小田急線(普通電車) 参宮橋駅下車徒歩8分

■地下鉄

千代田線 代々木公園駅下車徒歩10分



■お問い合わせ

全国児童養護問題研究会 第52回全国大会 現地実行委員会事務局
児童養護施設 品川景德学園

E-mail: tokyo52@youmonken.com (お問い合わせはメールをお願いいたします)

■全国児童養護問題研究会ホームページ <http://youmonken.org/>

“未来をになう子どもたちに 仲間とつくろう豊かな実践を”



全国児童養護問題研究会 全国大会 第52回 東京大会

大会テーマ

社会的養護の勇氣ある変革を
～権利を保障する魅力ある施設・ホーム・拠点づくり～

主催: 全国児童養護問題研究会

開催期間: 2025年6月21日(土)・22日(日)

開催場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター内

大会委員長 : 武藤 素明(全国児童養護問題研究会 会長)
現地実行委員長 : 宮田 浩明(社会福祉法人セント・ジョセフ会 理事長)
現地副実行委員長 : 早川 悟司(子供の家) 飛松 義豪(愛恵会フォスタリング)
大会事務局長 : 高橋 朝子(品川景德学園)

第52回 東京大会へのお誘い

子どもを取り巻く状況は、少子化にも関わらず不登校・引きこもり、青少年の自死、児童虐待・不適切養育等々の増加傾向にもあり、依然厳しい実態にあります。これまで全国児童養護問題研究会(以下、「養問研」)は、50年以上前から子どもの権利保障やそこに関わる養育者や職員の権利保障も重要と、研究と実践、そして交流やアクションを展開してきました。

今年の第52回全国大会は、大会テーマを「社会的養護の勇氣ある変革を」とし、養問研が新たに改訂した「児童養護の実践指針」を全面に打ち出し、真に子どもを主人公とした児童養護実践を展開するために必要なことを追求する大会としたいと思います。

今年は、東京開催となります。会員の皆様、また、会員でない方も、皆様お誘いあわせの上、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

全国児童養護問題研究会 会長 武藤 素明

★大会スケジュール

11:00		12:00	12:20	13:00	15:00	15:15	17:00	19:00	21:00
6/21 (土)		受付	開 会	基調 報告	記念講演		児童福祉 講座		夕食 交流会
8:30 9:00		12:00		13:00		16:00 16:15		16:45	
6/22 (日)	受 付	分科会		分科会			閉 会		

【第1日目】6月21日(土) 受付 11:00 カルチャー棟小ホール

■全体会 12:00～12:20

- ◇養問研会長挨拶
- ◇現地実行委員長挨拶
- ◇来賓挨拶
- ◇書籍紹介
- ◇全国事務局案内

■基調報告 12:20～13:00

報告:養問研調査研究部長 片岡 志保

■記念講演 13:00～15:00

テーマ『幸せのメカニズム』

児童養護問題と関連づけながら、幸福学の基礎について述べます。幸せの心的要因は、因子分析を行って求めた「4つの因子」からなります。「4つの因子」とは、「やってみよう因子」、「ありがとう因子」、「なんとかなる因子」、「ありのままに因子」です。

子どもの行動を理解し、自己責任ではなく、ひとりひとりの幸せを追求することは、援助者の幸せにもつながります。

《講演者》武蔵野大学ウェルビーイング学部長・教授／慶應義塾大学名誉教授
／ウェルビーイング学会代表理事 前野 隆司 氏



■児童福祉講座 15:15～17:00

A『子どもの生活づくり～児童養護への招待～』

「生活の中で育む‘共感’と‘自己表現’に学ぶ育ちあい ～あなたの‘好き’は可能性～」
近年の社会的養育には、様々な支援と高い専門性が求められています。それらの基盤となるのは、今も昔も、子どもと大人が生活の営みを通して‘共感’や‘自己表現’の情操の中で育ちあう関係性にあると考えます。言語・非言語的‘共感’をカードゲームで、当施設の‘好き’が繋げてきた自己表現(ダンス・音楽)の実践報告をふまえて参加者の‘好き’を通した関わりの可能性について深めたいと思います。

愛知県:和進館児童ホーム 自立支援担当職員 加藤 潤 氏

B『豊かな人間関係づくり』

「ボクシングを通じて培ってきた人間関係 ～熱をもって接すれば熱をもってかえってくる～」
現在SRSボクシングジムを運営している傍ら全国の児童養護施設を「こころの青空基金」を通じてボクシングセッションで訪問しています。各施設で子どもたちとどう向き合いどう寄り添うべきか、ボクシングというスポーツで体現してきました。これまでの実践を報告しながら皆様と共有したいと思います。

東京都:元プロボクサー(元日本・東洋太平洋ライト級チャンピオン)
SRSボクシングジム 会長・こころの青空基金 代表 坂本 博之 氏

C『援助者としてのそだちあい』

「真に子どもの権利を擁護するために求められる職員のそだち」
「子どもの最善の利益」、「子どもの意見表明権」などのワードが飛び交う今の児童養護の分野において、本当の意味で子どもの権利を擁護するために職員には何が求められるのか。昨年の全国児童養護問題研究会全国大会において提案された「児童養護の実践指針(第5版・案)」も踏まえて、職員のそだちについて考えます。

奈良県:奈良市子どもセンター 弁護士 浦 弘文 氏

D『子ども・若者のケアニーズに応じた支援』

「アタッチメントが不安定な子どもの理解と必要なケア」
逆境的小児期体験(ACEs)は、子どもの脳や神経系、内分泌系や免疫系にまで悪影響を与えます。傷ついた体験が子どもの成長に与える影響や、生活の中で配慮すべき点、必要なケアについて理解を深めます。時には周囲を困らせる子どもの行動も適切に理解し、支援の対象と捉え、対応を学びます。

埼玉県:さいたま子どものこころクリニック 院長 星野 崇啓 氏

E『青年期の自立支援』

「多様な自立と制度活用 あるいは制度を超えて」
社会福祉法人福祉楽団は「すべての人の可能性を広げる」を使命として2001年に設立した法人です。子ども、障害のある人、高齢者など分野や制度を横断して事業を展開し、制度のスキマをフォローしていく実践を大切にしています。どの世代であっても、人間の活動の基盤は生活であって、生活を整えていくことが私たちの仕事です。生活を整えれば、心も身体も整っていくことを理解し、ケアの対象を整理することが必要です。

千葉県:社会福祉法人 福祉楽団 理事長 飯田 大輔 氏

F『これからの家庭(的)養護』

「里親支援の新たな試み 施設等との協働に向けて」
2024年より里親支援センターが、第二種福祉事業として開始しました。家庭養育を進めるなかで、「子どもにとって」の視点と、家族再構築支援、家族再統合支援の視点を含めた取組みが求められています。転換期であるからこそ、もう一度、「子どもにとっての家庭(的)養護」について、里親家庭と子ども支援の視点から考えます。

東京都:二葉乳児院 院長／二葉・子どもと里親サポートステーション 統括責任者 長田 淳子 氏

G『多機関連携と多職種連携』

「児童養護施設の機能を地域の家庭・社会とシェア」
東京では児童家庭支援センターが設置されない中、子供の家では「地域の子どもや家庭は地域で支える」ことを目的に「そだちのシェアステーション」を立ち上げました。自治体や関係団体と協働し、子どもの居場所・ショートステイ・トワイライトステイ・子ども食堂・養育相談・アウトリーチ活動等について、制度の枠を超えた実践も含めて共有します。

東京都:子供の家 副施設長／そだちのシェアステーション つぼみ・かえで 統括責任者 能村 愛 氏

H『今後の社会的養護のあり方』

「社会的養護従事者こそが変革の旗手に!」
家庭支援と里親支援と自立支援が伸張すれば、これまで児童相談所と入所施設ばかりで描かれてきた社会的養護の景色は大きく変わっていくことでしょう。但しそれは、従来の施設が無用になるということでは決してありません。むしろ変革のベースキャンプは施設自体であり、変革の旗手は現にそこで洋々と働いているケアワーカーたちです!

福井県:社会的養育総合支援センター 一陽 統括所長 橋本 達昌 氏

■夕食交流会 19:00～21:00 国際交流棟 レセプションホール

美味しく食事をしながら、参加者のみなさまの交流を深めましょう。ぜひご参加ください。

■分科会 午前 9:00～12:00 午後 13:00～16:00
第1分科会 『子どもの生活づくり』
午前:「子どもアドボカシー(意見表明等支援事業)の実践に向けて」 子どもは自分にかかわる決定について意見を表明する権利があります。しかし実際に大人はどれだけ子どもの声を聴けているでしょうか? 力関係のなかでかき消されがちな子どもの意見を傾聴し、子ども自身が声を上げられるよう支える子どもアドボカシーについて共に学び実践しませんか? ＜報告者＞東京都:一般社団法人 子どもの声から始めよう 代表理事 川瀬 信一 氏
午後:「社会的養護を経験した若者の自立支援～入所中にできる生活づくりとは～」 岐阜羽島ボランティア協会では、2つの自立援助ホームと、岐阜県から委託を受けた社会的養護自立支援拠点事業「Lalaの部屋」を運営しています。施設等を退所してから様々な困難を経験してきた若者に多く出会い、支援を行ってきました。施設等で入所中という、安心・安全が守られた状況のもと、子どもたちが自立に向けて準備をしておいたほうがよいことについて、事例を通して皆さんと一緒に考えていきたいと思います。 ＜報告者＞岐阜県:社会的養護自立支援拠点 Lalaの部屋 相談員 水野 梨沙 氏

第2分科会 『豊かな人間関係づくり』
午前:「共感でつながるコミュニケーション NVC」 お互いを尊重し、助け合い、支え合うことは児童養護に不可欠です。それを実現するのは、対人間の関わり方やコミュニケーションであり、心身の安全やホッとできる関係性もそこから生まれます。本分科会ではM. ローゼンバーグが体系化した共感的なコミュニケーションであるNVC(Nonviolent Communication)を紹介し、ワークを通じて理解を深めます。 ＜報告者＞愛知県:共感 Empathy プロセス・ファシリテーター 水野 節子 氏
午後:「安心・安全をつらぬく生活づくり」 暴力を否定し、子どもの権利と最善の利益を実現するために、つばさ園では「話し合い」による生活づくりを構築してきました。40年の歩みとジェネラリスト・ソーシャルワークの実践を共有し、子どもが「生きていく」ことに寄り添う職員チームのあり方について考えます。 ＜報告者＞京都府:つばさ園 施設長 石塚 かおる 氏

第3分科会 『援助者としてのそだちあい』
午前:「援助者も支えるチームづくりとは」 施設において宝物は二つあります。一つはもちろん子どもたちです。そしてもう一つはその子どもたちを育ててくれる職員です。職員自身が幸福感をもっていなければ、子どもたちの日々も色のない日々になってしまいます。しかし、子どもの育ちを支援していくことは、喜びと同じぐらいにつらさもあります。そこへの向き合いを個のものだけにせず、チームとして取り組んでいくためにどのような方法があるかを考えてみたいと思います。 ＜報告者＞青森県:社会福祉法人 七戸美光園 理事長 児童養護施設 美光園 施設長 後藤 辰也 氏
午後:「援助者としてのそだちあいと支え合い ～トラウマインフォームドケアの観点によるチームづくり」 施設の小規模化・地域分散化が進み高機能化・多機能化が求められている中で、虐待や逆境の小児期体験のトラウマを負った子どもを養育するためには、職員同士のチームワークが一層重要になっています。職員同士のそだちあいと支え合いについて、トラウマインフォームドケアの観点から講義とワークを通じて学びます。 ＜報告者＞東京都:明治大学 教授 加藤 尚子 氏

第4分科会 『子ども・若者のケアニーズに応じた支援』
午前:「LGBTQの子ども・若者と支援の在り方」 「LGBTQという言葉は知っているけれど、実際に、どのように接したらよいかわからない。支援の仕方がわからない」と、性的少数者への対応に不安を感じている方の声を聞くことがあります。そこで、本分科会では、性の多様性に関する基本的な考え方から実務上の対応まで、幅広く、講師と共に考えます。 ＜報告者＞東京都:イメージント法律事務所 弁護士 樋田 早紀 氏 北千住法律事務所 弁護士 北条 友里恵 氏
午後:「子ども・若者のネット・ゲーム依存の実情と支援」 全国学力・学習状況調査(2024年)によると、平日、3時間以上ゲームをする小学生は約30%に上っています。子どもたちは長時間ゲームをすることが当たり前の環境にすることが窺えます。一方、逆境的小児期体験や愛着障害を有していると、依存に陥るリスクが上昇することが明らかとなっています。本分科会では、リスクの高い子どもに関わる際に立ち戻れる基本的な理論を共有したいと思います。 ＜報告者＞神奈川県:独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター 主任心理療法師 三原 聡子 氏

第5分科会 『青年期の自立支援』
午前:「女性支援から考える社会的養護 ～回復からの自立支援～」 女性自立支援施設には、かつて社会的養護を利用した女性や、施設に子どもを預けている女性の入所が少なくありません。都内には日本で唯一、産前産後の時をひとりで迎える女性を支援する施設もあり、社会的養護と地続きの分野となっています。2024年度には女性支援新法が施行されました。新しい法律と女性支援現場の報告を通して、青年期の支援を考えます。 ＜報告者＞東京都:女性自立支援施設 慈愛jiai 施設長 熊谷 真弓 氏 女性自立支援施設 いずみ寮 主任支援員 高橋 美帆 氏
午後:「社会的養護経験者と若者支援団体と語る青年期の支援」 「ピア応援ラジオ」は児童養護施設・里親家庭・自立援助ホームで生活した学生が、同じように社会的養護で暮らす中高生を応援するために企画・制作しています。どんな家族も生きやすい社会を構築することを目指す「第3の家族」、生まれてきてくれてありがとうを伝える「ACHAプロジェクト」と共に若者のニーズや支援の実態にぎやかに語り合います。 ＜報告者＞東京都:朝日厚生文化事業団 ピア応援ラジオ 第3の家族 代表 奥村 春香 氏 ACHAプロジェクト 代表 山本 昌子 氏

第6分科会 『これからの家庭(的)養護』
午前:「1自治体1里親支援センター 地域で暮らす里親子のニーズに応じた取り組み」 東京都世田谷区では児童福祉法改正に伴い、都内でいち早く特別区での児童相談所の設置を進め、フォスタリング機関も設置しています。この数年をかけて普及啓発研修の委託から始まり、ケース対応・アフターケア等一貫した里親支援を行っています。2025年度からは里親支援センターとなります。現場の実践の共有と今後の里親支援についてみなさんと語り合う場としていきます。 ＜報告者＞東京都:里親支援センター ともがき 岩田 祐一郎 氏
午後:「家庭養護(ファミリーホーム)の実践を学び、私たちは目の前のこどもへ何をしたいか」 社会的養護の子どもたちが生活する施設を決められないという問題提起はよく耳にしますが、家庭養護か家庭的養護なのかも選べないことを意識したことはありますか?そもそもどのような違いがあるのでしょうか。同じ社会的養護のもとにある目の前の子どもたちに明日から何ができるでしょうか。私たち親子と皆さんと一緒に探りませんか? ＜報告者＞福島県:ファミリーホーム まる家 高木 美幸 氏 沖縄県:コザ児童相談所 児童福祉司 高木 春花 氏

第7分科会『多機関連携と多職種連携』
午前：「親と子が離れない支援」 社会的養護の発生理由の多くは母子家庭における孤立や貧困です。家庭に対する支援が不十分なまま、子どもは家庭や地域から分離されている実情があります。母子生活支援施設とひとり親向け住宅支援の実践から、家族と共に子どもの生活を守ることの意義や課題を共有します。 ＜報告者＞東京都：母子生活支援施設 ベタニヤホーム 施設長 伊丹 桂 氏 シングルスキッズ株式会社 代表取締役 山中 真奈 氏
午後：「乳児院等におけるショートステイの取組と連携・課題について」 乳児院におけるショートステイは、保護者支援、乳児の保護、そして地域の子育て支援を目的としています。専門職や関係機関との連携は不可欠であり、情報共有や役割分担が課題となっています。円滑な連携を通じて支援効果を高めるための方法について、3つの乳児院の実践を報告しながら、皆様と共に考えていきたいと思います。 ＜報告者＞東京都：愛恵会乳児院 施設長 佐藤 雅美 氏 大阪府：すみれ乳児院 家庭支援専門相談員 原田 裕貴子 氏 愛知県：キルシェハイム 施設長 栗原 英樹 氏

第8分科会『今後の社会的養護のあり方』
午前：「児童養護施設等に求められる地域社会での役割」 社会福祉法人光明童園は、児童養護施設や児童自立生活援助事業Ⅱ型等によるケアワークと、児童発達支援センターや児童家庭支援センター等の地域支援、ソーシャルワークを行っており、「社会的養育総合支援センター」として活動しています。その活動を通して、これからの社会的養護について、皆様と共に考えたいと思います。 ＜報告者＞熊本県：光明童園 理事長 堀 淨信 氏 こども家庭庁 篠原 修二 氏
午後：「児童養護施設の今後の形態と組織運営」 児童養護施設には小規模かつ地域分散化、高機能・多機能化等が求められています。一方で、これに対応する実践現場の孤立や疲弊も軽視できません。これらを並び立たせる施設の形態と組織運営を先駆する両施設から学び、今後の児童養護施設等のあり方を考えます。 ＜報告者＞大阪府：西本願寺常照園 施設長 小川 健二郎 氏 千葉県：実籾パークサイドハウス 施設長 藤堂 智典 氏

■閉会 16:15～16:45

- ◇大会現地実行委員会報告
- ◇大会総評



【参加費】 開催期間：6月21日(土)・6月22日(日)

参加形態・種別	参加費		年会費	6/21 夕食交流会費
	全日程(2日間通し)	1日のみ		
会 員	8,000円	4,000円	4,000円	7,000円
一 般	12,000円	6,000円		7,000円
学 生	3,000円	1,500円		4,000円

※「会員」の方は、参加費に年会費を加えてお申し込みください(年会費には『社会的養護研究第5号』の代金が含まれています)。
※大会参加時に入会される方も、「会員」扱いとなります。申込書には「一般」と記載してお申し込みいただき、大会期間中に「会員受付」へ入会申込書を提出してください。
※当日参加も歓迎します。ただし、定員に達した児童福祉講座・分科会への参加はお断りすることがあります。
※6月21日の夕食交流会の当日受け付けはできませんので、期日までにお申し込みください。
※昼食は大会事務局で取り扱いませんので、各自でご用意ください。会場近辺に飲食店・コンビニ等がありますので、ご利用ください。

【参加申込方法】 5月23日(金)まで

- ①全国児童養護問題研究会 第52回全国大会参加申し込みフォーム(以下、申し込みフォーム)よりお申し込みください。その際、必ずメールアドレスが必要です。
- ②次に、参加費・年会費・夕食交流会費の合計額を5月30日(金)までに、下記口座へお振り込みください(現金書留での送金は受け付けておりません)。
- ③施設等の所属より複数名で参加される場合も、1名ずつ申し込みしてください。
- ④申し込みフォームからお申し込み後、正しく受付された場合には自動送信にて受付完了メールをお送りします。受付完了メールが到着しない場合は、正しく受付できておりません。入力されたメールアドレスを再度ご確認くださいとともに、念のため迷惑メールフォルダ等もご確認ください。その他、ご不明な点は事務局までメールでお問い合わせください。
- ⑤児童福祉講座・分科会は、定員によりご希望にそえない場合があります。必ず第2希望までご入力ください。

【問い合わせ先】

全国児童養護問題研究会 第52回全国大会 現地実行委員会事務局
tokyo52@youmonken.com

★キャンセル

- ・キャンセルは、メールにて、振込者名・所属をご記入の上、事務局まで送信してください。
- ・キャンセルの期日は、「参加費」「夕食交流会費」とも6月6日(金)までとさせていただきます。期日までにご連絡をいただいた場合、振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。

【振込先】 ゆうちょ銀行【店番(店名)】〇一九 (019)
【口座番号】 (種別)当座預金 0639283
【ゆうちょ銀行からの送金】(記号・番号) 00110-9-639283
【口座名称】 養問研全国大会(東京) ヨウモンケンゼンコクタイカイ(トウキョウ)

参加申し込みフォーム



上記、二次元コードから
参加申し込みフォームに
アクセスしてください。

参加申し込みURL
<https://forms.gle/hyyXtGrvVxVw7jnU6>